

2020年6月23日

報 道 機 関
各 位

公益財団法人 関西生産性本部

「在宅勤務に関する意識調査」WEB アンケート結果

公益財団法人 関西生産性本部(会長：大坪 清 (レンゴー株) 代表取締役会長兼 CEO)、大阪市北区中之島)は、6月23日、新型コロナウイルス感染症の影響により、在宅勤務が増加していくなかで、仕事の進め方や生活などの変化についてWEB アンケート調査を行い、結果を取りまとめ、公表しました。

当本部は、経営者・労働者・学識経験者の三者参画による生産性運動をかねてから展開しており、当本部賛助会員組織を中心とする、関西地域の企業、労働組合、大学などの組織で働く3853名を対象に今回の調査を行い、460名の回答を得ました。

本アンケートでは、在宅勤務による心身、就業意欲、生産性などへの影響について調査を行っております。

〈調査概要〉

- ・調査実施期間：2020年5月29日（金）～6月5日（金）
- ・設 問 数：22問
- ・調査送付数：3853名
- ・調査回答数：460名
- ・回 答 率：約12%

【添付資料】

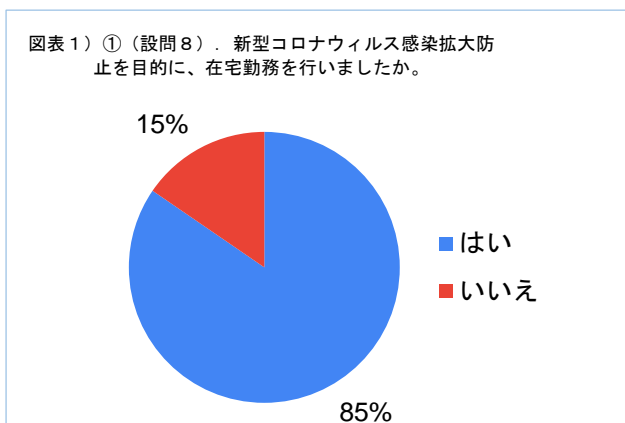
- ・資料①：調査票 (Web アンケート)
- ・資料②：単純集計表

【お問い合わせ先】

(公財)関西生産性本部 事業部 安田・金谷・芝原
〒530-6691 大阪市北区中之島 6-2-27 中之島センタービル 28 階
TEL 06-6444-6464 FAX 06-6444-6450 <https://www.kpcnet.or.jp>

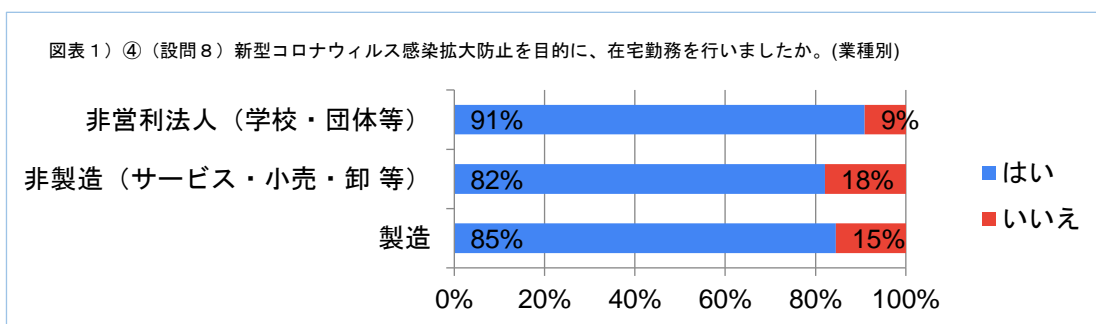
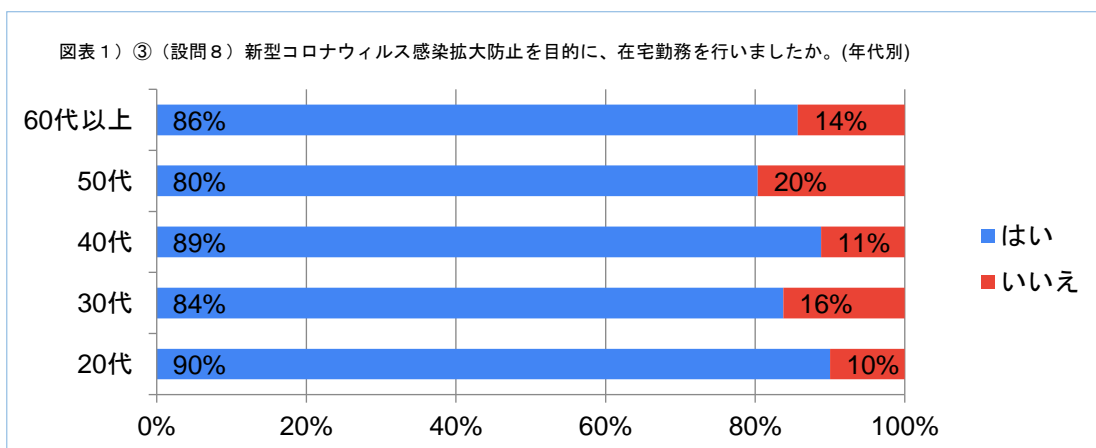
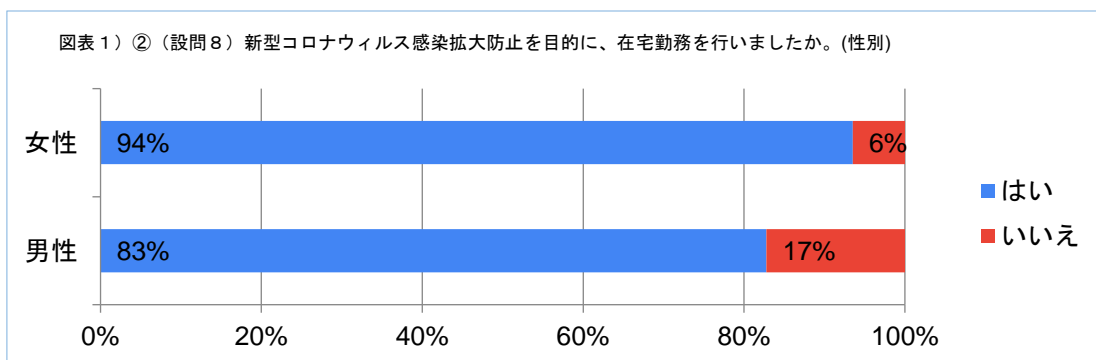
調査結果（「資料②：単純集計表」参照）

（１）新型コロナウイルス感染拡大防止を目的にした在宅勤務の実施状況



・在宅勤務を行った：85%
 ・在宅勤務を行わなかった：15%
 在宅勤務に関しては、8割を超える実施率であった。

性別では女性（94%）、年代別では20才代（90%）と40才代（89%）、業種別には非営利法人（91%）、製造（85%）で在宅勤務の実施率が高かった。



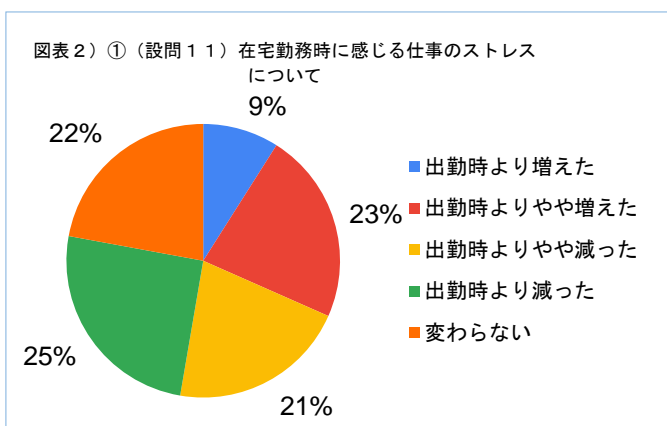
※以下は、在宅勤務を行った389名の設問への回答を集計しております。

(2) 在宅勤務による、心身、就業意欲、生産性への影響について

本調査では、「仕事のストレス」「仕事の生産性」「体調の変化」「人事評価への不安」「やりがい働きがい」「帰属意識」の順に影響が大きかった。

※「変わらない」「わからない」の回答率が少ないものを「影響が大きい」とみなした。

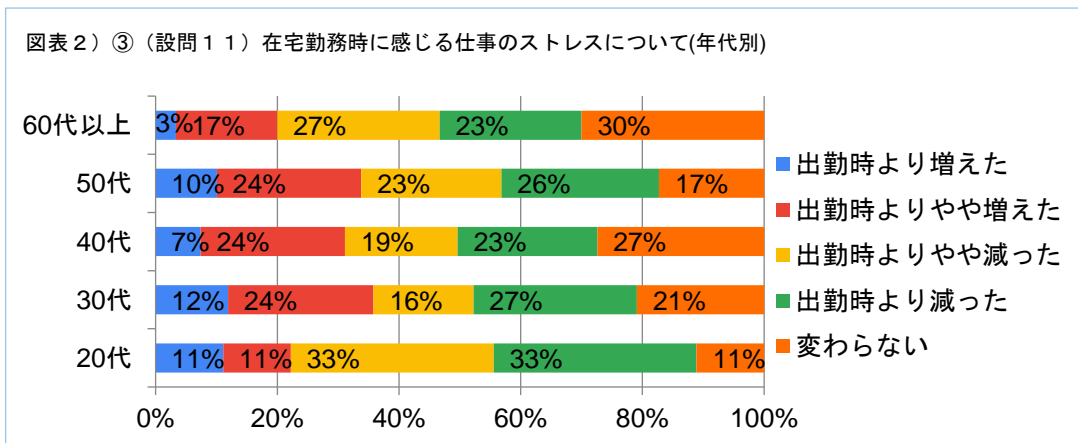
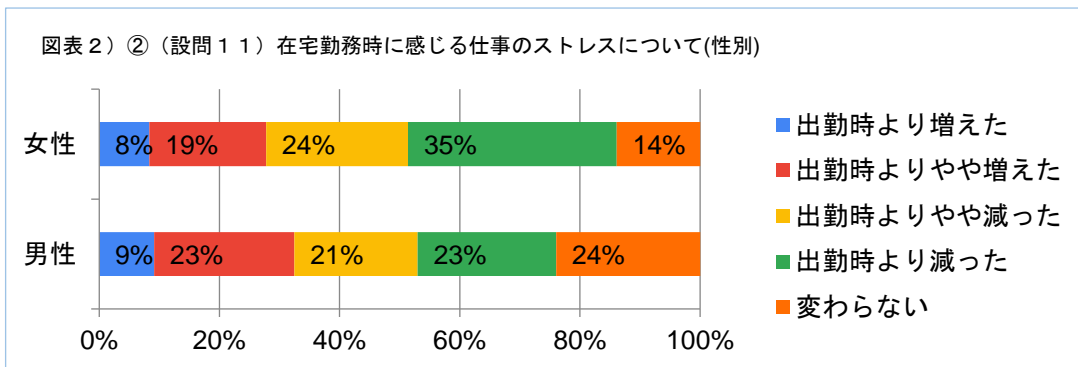
・仕事のストレス



出勤時よりも在宅勤務の方がストレスが減った・やや減った(46%)、増えた・やや増えた(32%)であった。

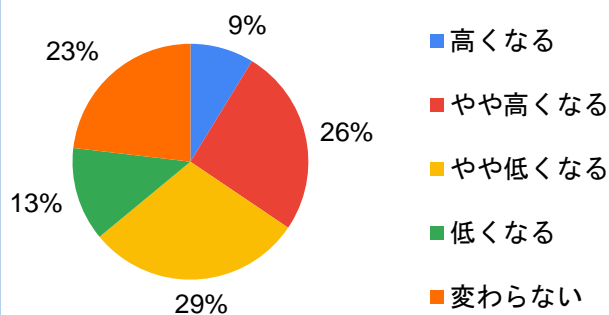
性別では女性(59%)、年代別では20才代(66%)でストレスが軽減されていた。

全体では、78%の人が、ストレスの変化を感じていた。



・仕事の生産性について

図表2) ④ (設問15) 在宅勤務時の仕事の生産性について

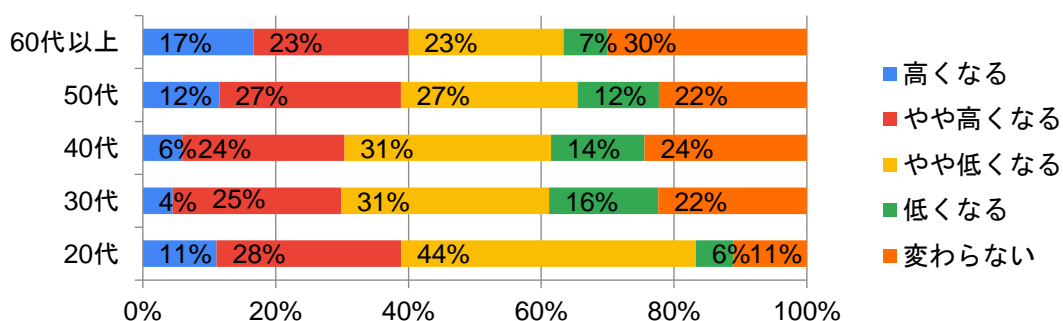


在宅勤務時の仕事の生産性が高くなる・やや高くなる(35%)、低くなる・やや低くなる(42%)であった。

年代別では、60才以上は、生産性が高くなる(40%)と感じる人が多いが、20才代では生産性が低下した(50%)と感じる人が多かった。

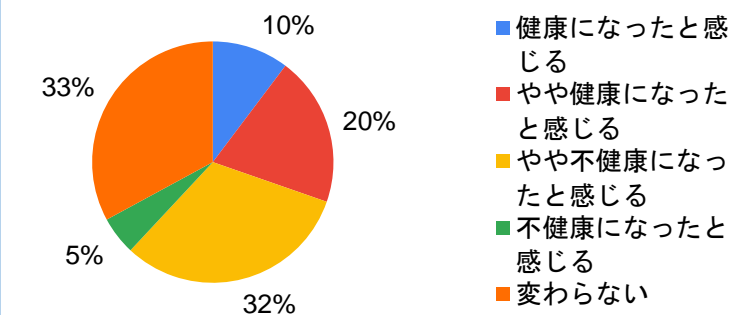
全体では、77%の人が、生産性の変化を感じていた。

図表2) ⑤ (設問15) 在宅勤務時の仕事の生産性について(年代別)



・体調の変化

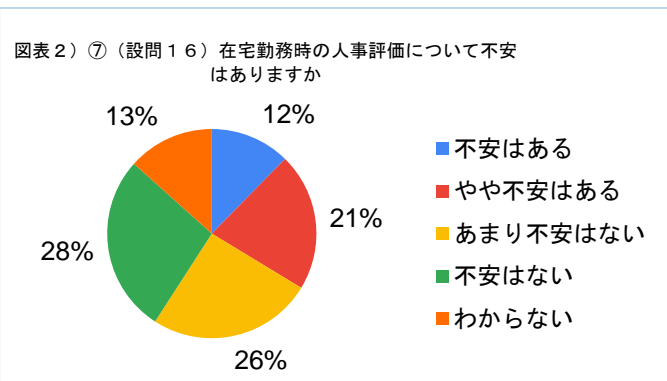
図表2) ⑥ (設問19) 在宅勤務による体調の変化について



在宅勤務によって健康になった・やや健康になった(30%)、不健康になった・やや不健康になった(37%)、変わらない(33%)でほぼ同じ割合であった。

全体では、67%の人が、体調の変化を感じていた。

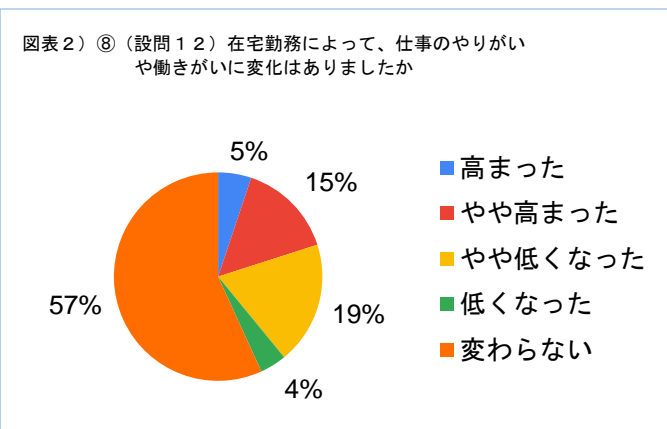
・ 人事評価への不安



在宅勤務時の人事評価については、不安はない・あまり不安はない(54%)、不安はある・やや不安はある(33%)で、不安がない方が多い傾向にある。

全体では、59%(不安はない、わからないを除く比率)の人が、人事評価に不安を感じていた。

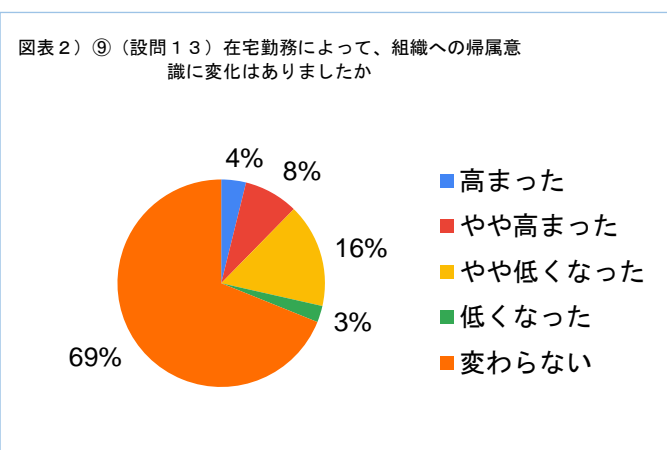
・ やりがい働きのいい



在宅勤務によって、仕事のやりがいや働きがいにについては、変わらない(57%)、高まった・やや高まった(20%)、低くなった・やや低くなった(23%)であった。

全体では、43%の人が、仕事のやりがい働きのいいに変化を感じていた。

・ 帰属意識

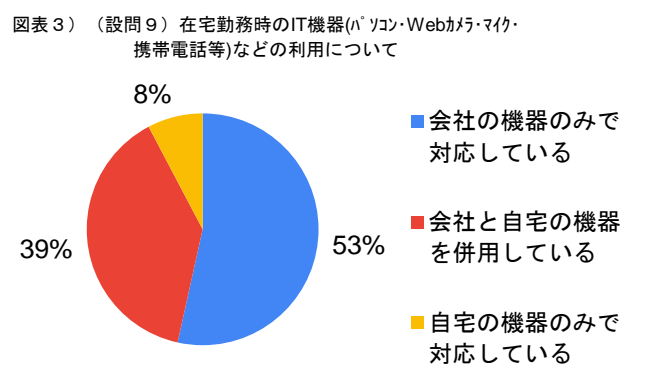


組織への帰属意識については、変わらない(69%)、高まった・やや高まった(12%)、低くなった・やや低くなった(19%)、であった。

全体では、31%の人が、帰属意識に変化を感じていた。

以上を踏まえ、「仕事のストレス」が77%と最も変化が大きく、「帰属意識」が31%と最も変化が小さかった。

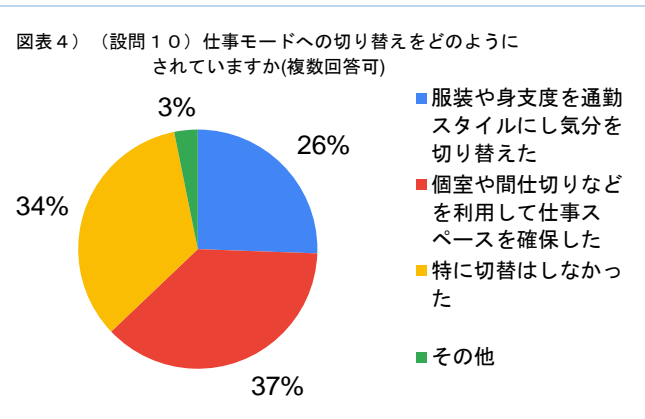
(3) 在宅勤務時の IT 機器などの利用について



在宅勤務時の IT 機器は、会社の機器のみで対応（53%）、会社と自宅の機器を併用（39%）、自宅の機器のみで対応（8%）という状況であった。

全体では、約4割の人が自宅の機器も利用して勤務を行っていた。

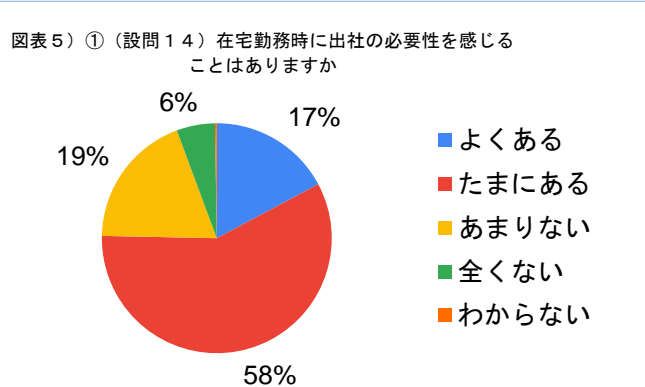
(4) 在宅勤務時の仕事モードへの切り替えについて



服装や身支度を通勤スタイルにして気分を切り替えた（26%）、個室や間仕切りなどを利用して仕事スペースを確保した（37%）、特に切り替えはしなかった（34%）。

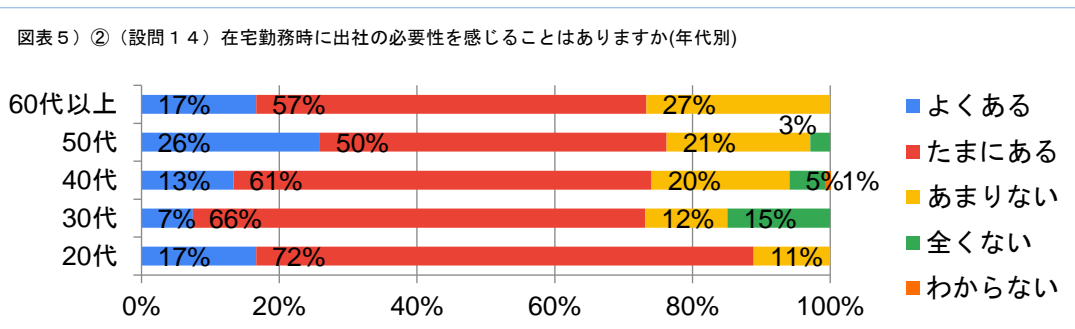
全体では、約7割の人が服装や仕事スペースなどにより、仕事モードへの切り替えを行っていた。

(5) 在宅勤務時に出社の必要性について



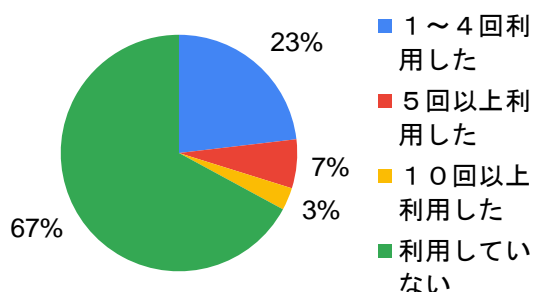
よくある・たまにある（75%）、全くない・あまりない（25%）となり、7割以上の方が出社の必要性を感じていた。

年代別には、20才代がよくある・たまにある（89%）と多かった。



(6) 在宅勤務の間のオンライン学習の利用について

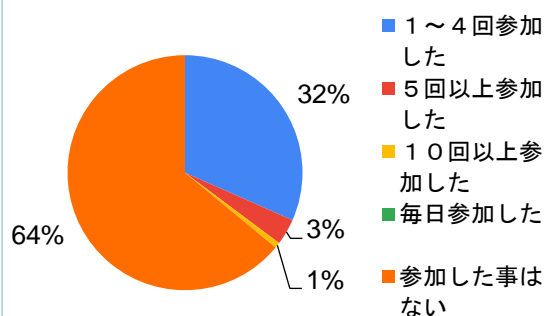
図表6) (設問18) 在宅勤務の間、オンライン学習を利用して自己啓発をされましたか。利用された方は、月の利用頻度についてお答えください



オンライン学習を利用した人が、全体の33%、1度も利用していない人が67%であった。

(7) オンライン飲み会への参加について

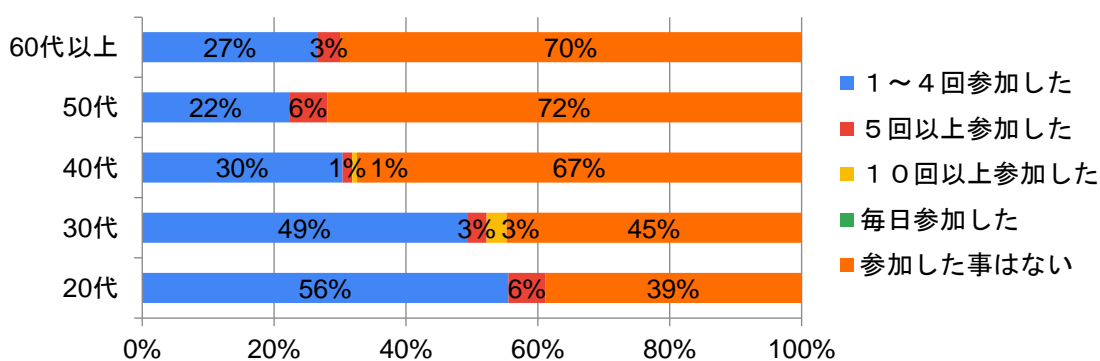
図表7) ① (設問20) 外出自粛期間中に「オンライン飲み会」に参加されましたか



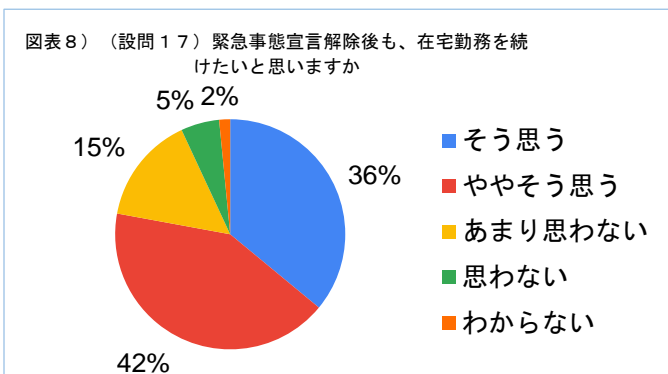
オンライン飲み会に参加した人が、全体の36%、利用していない人が64%であった。

年代別では、20才代が最も多く(61%)、年代が若い順から利用度が高い傾向であった。

図表7) ② (設問20) 外出自粛期間中に「オンライン飲み会」に参加されましたか(年代別)

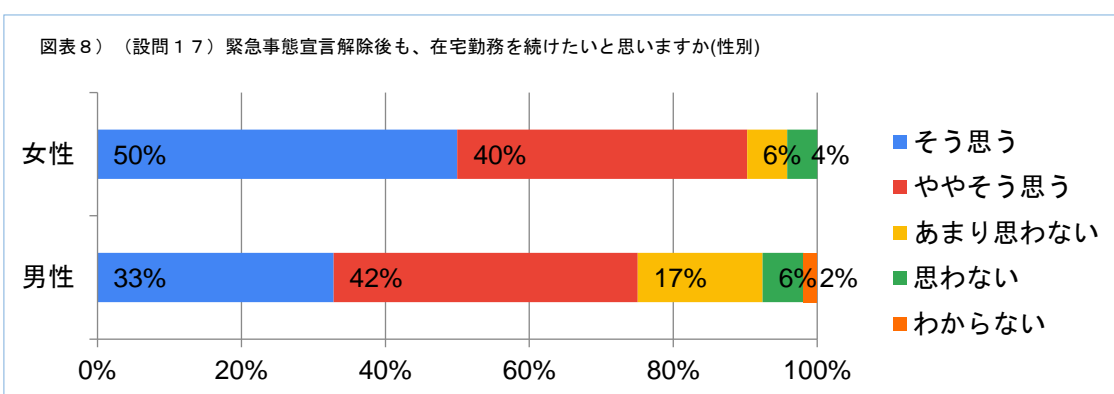


(8) 緊急事態宣言解除後の在宅勤務の継続希望について



そう思う・ややそう思う（78%）、思わない・あまり思わない（20%）であり、緊急事態宣言解除後も、在宅勤務の継続を希望する傾向が強かった。

性別では、9割の女性が在宅勤務の継続を希望した。



(9) 在宅勤務によるメリット・デメリットについて（自由意見）

【メリット】（重複コメントあり）

- ①通勤・移動時間の削減（233件）
- ②業務に集中して取り組める（53件）
- ③仕事とプライベートの両立ができる（44件）

通勤時間、移動時間の削減が最もメリットとして感じている。

【デメリット】（重複コメントあり）

- ①コミュニケーション上で支障あり（101件）
- ②業務の生産性・効率の低下（91件）
- ③通信設備、什器環境の不具合・未整備（54件）
- ④ストレスや運動不足による心身の不調（38件）

コミュニケーション上で支障ありが最もデメリットとして感じている。業務の生産性・効率の低下は、コミュニケーション上の支障や通信設備、什器環境の不具合・未整備との複合的な要因の結果としての重複コメントの件数が多かった。

「在宅勤務に関する意識調査」(Web アンケート)
〈調査票〉

問1 性別

1. 男性
2. 女性

問2 年代

1. 20代
2. 30代
3. 40代
4. 50代
5. 60代以上

問3 業種

1. 製造
2. 非製造（サービス・小売・卸 等）
3. 非営利法人（学校・団体等）
4. その他

問4 職種

1. 営業
2. 生産・物流
3. 企画・管理
4. 技術・開発
5. 事務
6. その他

問5 職位

1. 管理職
2. 監督職（係長等）
3. 一般職
4. 非正規（嘱託、パート）
5. その他

問6 区分

1. 労働組合役員
2. 労働組合員
3. 非労働組合員
4. 当社に労働組合はない

問7 規模

1. 大規模(300名超)
2. 中小規模(20名超～300名以下)
3. 小規模(20名以下)

問8 新型コロナウイルス感染拡大防止を目的に、在宅勤務を行いましたか。

※「いいえ」の場合、本アンケートは終了します。

1. はい
2. いいえ

問9 在宅勤務時のIT機器(パソコン・Webカメラ・マイク・携帯電話等)などの利用について

1. 会社の機器のみで対応している
2. 会社と自宅の機器を併用している
3. 自宅の機器のみで対応している

問10 仕事モードへの切り替えをどのようにされていますか(複数回答可)

1. 服装や身支度を通勤スタイルにし気分を切り替えた
2. 個室や間仕切りなどを利用して仕事スペースを確保した
3. 特に切替はしなかった
4. その他

問11 在宅勤務時に感じる仕事のストレスについて

1. 出勤時より増えた
2. 出勤時よりやや増えた
3. 出勤時よりやや減った
4. 出勤時より減った
5. 変わらない

問12 在宅勤務によって、仕事のやりがいや働きがいに変化はありましたか

1. 高まった
2. やや高まった
3. やや低くなった
4. 低くなった
5. 変わらない

問13 在宅勤務によって、組織への帰属意識に変化はありましたか

1. 高まった
2. やや高まった
3. やや低くなった
4. 低くなった
5. 変わらない

問14 在宅勤務時に出社の必要性を感じることはありますか

1. よくある
2. たまにある
3. あまりない
4. 全くない
5. わからない

問15 在宅勤務時の仕事の生産性について

1. 高くなる
2. やや高くなる
3. やや低くなる
4. 低くなる
5. 変わらない

問16 在宅勤務時の人事評価について不安はありますか

1. 不安はある
2. やや不安はある
3. あまり不安はない
4. 不安はない
5. わからない

問17 緊急事態宣言解除後も、在宅勤務を続けたいと思いますか

1. そう思う
2. ややそう思う
3. あまり思わない
4. 思わない
5. わからない

問18 在宅勤務の間、オンライン学習を利用して自己啓発をされましたか。

利用された方は、月の利用頻度についてお答えください

1. 1～4回利用した
2. 5回以上利用した
3. 10回以上利用した
4. 利用していない

問19 在宅勤務による体調の変化について

1. 健康になったと感じる
2. やや健康になったと感じる
3. やや不健康になったと感じる
4. 不健康になったと感じる
5. 変わらない

問20 外出自粛期間中に「オンライン飲み会」に参加されましたか

1. 1～4回参加した
2. 5回以上参加した
3. 10回以上参加した
4. 毎日参加した
5. 参加した事はない

問21 在宅勤務によるメリットは何ですか(自由記述)

問22 在宅勤務によるトラブルやデメリットは何ですか(自由記述)

「在宅勤務に関する意識調査」単純集計表

1. 性別		男性	女性					合計
	人数	383	77					460
	比率	83%	17%					100%
2. 年代		20代	30代	40代	50代	60代以上		合計
	人数	20	80	152	173	35		460
	比率	4%	17%	33%	38%	8%		100%
3. 業種		製造	非製造(サービス・小売・卸等)	非営利法人(学校・団体等)	その他			合計
	人数	310	106	44	0			460
	比率	67%	23%	10%	0%			100%
4. 職種		営業	生産・物流	企画・管理	技術・開発	事務	その他	合計
	人数	23	50	158	67	127	35	460
	比率	5%	11%	34%	14%	28%	8%	100%
5. 職位		管理職	監督職(係長等)	一般職	非正規(嘱託、パート)	その他		合計
	人数	264	65	120	6	5		460
	比率	58%	14%	26%	1%	1%		100%
6. 区分		労働組合役員	労働組合員	非労働組合員	当社に労働組合はない			合計
	人数	76	84	218	82			460
	比率	17%	18%	47%	18%			100%
7. 規模		大規模(300名超)	中小規模(20名超~300名以下)	小規模(20名以下)				合計
	人数	384	59	17				460
	比率	83%	13%	4%				100%
8. 新型コロナウイルス感染拡大防止を目的に、在宅勤務を行いましたか。 ※「いいえ」の場合、本アンケートは終了します。		はい	いいえ					合計
	人数	389	71					460
	比率	85%	15%					100%
9. 在宅勤務時のIT機器(パソコン・Webカメラ・マイク・携帯電話等)などの利用について		会社の機器のみで対応している	会社と自宅の機器を併用している	自宅の機器のみで対応している				合計
	人数	208	151	30				389
	比率	53%	39%	8%				100%
10. 仕事モードへの切り替えをどのようにされていますか(複数回答可)		服装や身支度を通勤スタイルにし気分を切り替えた	個室や間仕切りなどを利用して仕事スペースを確保した	特に切替はしなかった	その他			合計
	人数	113	165	150	14			442
	比率	26%	37%	34%	3%			100%
11. 在宅勤務時に感じる仕事のストレスについて		出勤時より増えた	出勤時よりやや増えた	出勤時よりやや減った	出勤時より減った	変わらない		合計
	人数	35	88	82	98	86		389
	比率	9%	23%	21%	25%	22%		100%
12. 在宅勤務によって、仕事のやりがいや働きがいに変化はありましたか		高まった	やや高まった	やや低くなった	低くなった	変わらない		合計
	人数	20	58	74	16	221		389
	比率	5%	15%	19%	4%	57%		100%
13. 在宅勤務によって、組織への帰属意識に変化はありましたか		高まった	やや高まった	やや低くなった	低くなった	変わらない		合計
	人数	15	33	63	10	268		389
	比率	4%	8%	16%	3%	69%		100%
14. 在宅勤務時に出社の必要性を感じることはありますか		よくある	たまにある	あまりない	全くない	わからない		合計
	人数	67	226	74	21	1		389
	比率	17%	58%	19%	6%	0%		100%
15. 在宅勤務時の仕事の生産性について		高くなる	やや高くなる	やや低くなる	低くなる	変わらない		合計
	人数	34	100	115	50	90		389
	比率	9%	26%	29%	13%	23%		100%
16. 在宅勤務時の人事評価について不安はありますか		不安はある	やや不安はある	あまり不安はない	不安はない	わからない		合計
	人数	48	83	99	107	52		389
	比率	12%	21%	26%	28%	13%		100%
17. 緊急事態宣言解除後も、在宅勤務を続けたいと思いますか		そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	わからない		合計
	人数	140	163	59	21	6		389
	比率	36%	42%	15%	5%	2%		100%
18. 在宅勤務の間、オンライン学習を利用して自己啓発をされましたか。 利用された方は、月の利用頻度についてお答えください		1~4回利用した	5回以上利用した	10回以上利用した	利用していない			合計
	人数	90	26	12	261			389
	比率	23%	7%	3%	67%			100%
19. 在宅勤務による体調の変化について		健康になったと感じる	やや健康になったと感じる	やや不健康になったと感じる	不健康になったと感じる	変わらない		合計
	人数	40	78	123	20	128		389
	比率	10%	20%	32%	5%	33%		100%
20. 外出自粛期間中に「オンライン飲み会」に参加されましたか		1~4回参加した	5回以上参加した	10回以上参加した	毎日参加した	参加した事はない		合計
	人数	123	14	3	0	249		389
	比率	32%	3%	1%	0%	64%		100%
21. 在宅勤務によるメリットは何ですか(自由記述)		通勤・移動時間の削減	業務に集中して取り組める	コロナウイルス感染防止	仕事とプライベートとの両立ができる	その他(生産性の向上等)		合計
	人数	233	53	22	44	30		382
	比率	61%	14%	6%	11%	8%		100%
22. 在宅勤務によるトラブルやデメリットは何ですか(自由記述)		コミュニケーション上の支障あり	通信設備、什器環境の不具合・未整備	ストレスや運動不足による心身の不調	公私の区別が不明確	業務の生産性・効率の低下	創造性が生まれにくい、市場・人脈拡大に支障	合計
	人数	101	54	38	25	91	8	317
	比率	32%	17%	12%	8%	29%	2%	100%